

代車の管理システム導入 端末で予約、対応迅速化

ホンダカーズ松江



ホンダカーズ松江が導入した「代車スケジュールシステム」の画面＝松江市東津田町、同社東津田店

自動車ディーラーの(株)ホンダカーズ松江(松江市東津田町、三成浩巳社長)は、車検などで顧客に貸し出す代車やレンタカーをタブレット端末などで管理する「代車スケジュールシステム」を導入した。独自開発のソフトウェアを使い、社員50人の誰もが手持ちの端末や最寄りのパソコンで確認や予約できる。従来の手作業の面倒さを解消し、時間や場所を選ばずスピーディーに顧客に対応できるようにした。

同社は代車(試乗車、営業車含む)と、レンタ

カー計60台を保有する。サービス工場と板金工場も運営しており、一般的なディーラーより台数が多いという。

これまではカレンダー表示のホワイトボードを用いて管

理していたが、営業マンや整備士は事務員に電話連絡するか事務所に戻らないと確認や予約ができなかった。張った紙がはがれるトラブルや、1カ月先までしか予約が取れないなどの制約もあった。そこで、12人いる営業マンが、顧客に車種の特長を紹介するためのカタログ代わりに持ち歩いているタブレット端末の通信機能に着目。ソフトウェア開発の(株)ビジネスインフォーメーションガーヴァン(松江市朝日町)に頼み、スケジュール管理用の無料グループウェア(複数のユーザーが情報共有するソフト)を応用して開発してもらった。

コスト抑制のため自前のサーバーは持たず、クラウドシステムを採用。導入費用は約60万円で、月々のサブスクリプション料は1500円。

外出先や工場にあるパソコンでも予約が可能になったことで、ホンダカーズ松江の中村光明事業管理課長は「正確な上、社員の無駄な動きがなくなり効率的になった。お客さまに対して、その場で

代車を確保できたことが伝えられ、打ち合わせが短時間ですむ」とメリットを挙げる。

同社は将来的には、車検などのサービス入庫の管理ツールにも活用したい考えだ。

自然生かす産業やブランド 離島再生への取り組み紹介

海士町長 松江で講演

島根県海士町の山内道雄町長が、10月に開かれた島根産業安全衛生大会(島根労働災害防止団体連絡協議会など主催)で特別講演。「離島発! 地域再生への挑戦」と題して、地域資源を生かした産業の創造や、雇用の創出など島の活性化の取り組みを紹介した。

山内町長がまず最初に取り組んだのは役場の意識改革。年功序列の廃止や、町長自らが給料をカットする行財政改革を進めた結果、「海士町の自立促進に向けて、住民と意思を共有することができた」と振り返った。

町が生き残るための攻めの戦略として、島の自然環境を生かした第一次産業の再生を進め、先駆的な産業興しで外貨獲得を目指した。第三セク

ター「ふるさと海士」が、特殊な冷凍技術「CAS」を使った海産物の輸出に取り組み、隠岐牛のブランド化を目指す取り組みなどを紹介した。

また、2010年の国勢調査で海士町の人口が2374人にまで減少したことに触れ、「総人口は減ったものの、Iターン就職する若者が増え、町の活力は増した」と自信をみせた。

隠岐島前高校の国際交流の



地域再生の取り組みについて講演する山内道雄海士町長＝松江市殿町、島根県民会館

取り組みや、海士中学校の生徒が首都圏の大学を訪れ「逆出前授業」行う様子なども紹介し、「まちづくりの原点はひとつくりにある」と話した。